

Nice Town
Good People

こんにちは 町会です



中央区

第10号

佃二丁目
町会



夏のイベント流しそうめん



水風船などのミニゲームも開催

強い絆で結ばれるまちの
和
みんなで進めるまちづくり



まちを練り歩くみこしの一回

築地町
自治会



大勢の人々にぎわう祭

堀留町一丁目町会
小舟町町会
人形町三丁目西町会



三角バケツを使用した消火訓練



消火器でも実施



祭りの主役、壮大なみこし

明石町
町会



子どもみこしも参加



さあ、あなたも町会・自治会活動に参加しましょう！

江戸開府以来四百年以上にわたり文化・商業・情報の中心として繁栄し、下町特有の人情と連携によりコミュニティを形成してきたわたしたちのまち中央区。

定住人口が三十一万に十万人に達し、今後は「躍動とつながりの定住都市 中央区」を目指す本区にとって、昔から区内に居住している方々と新たに区内で生活を始めた方々との融和がコミュニティの維持・形成のための重要な課題となっています。

町会・自治会は、各種イベントのほかにも、子どもたちを地域で見守り育て、高齢者サークルと連携して活動し、リサイクルをはじめとする環境活動や防災訓練・夜警などさまざまな活動を行っています。「こんにちは町会です」では、これら町会・自治会活動の一端を紹介し、広く皆さんに知っていただくことで、現在未加入の方々に町会・自治会に関わっていただければ、と考えています。まだ加入されていない方は、お近くの町会・自治会にぜひお声をかけてみてください。

さあ、あなたも地域の活動に参加し、みんなでにぎわいとこれあいのある活力あるコミュニティをつくっていきましょう。

町会活動で助け合っ



かわいいイラストが入ったチラシも手づくり

築地四丁目町会

大人も一緒に楽しめる！
みんなが集まる「築四緑日」

築地四丁目町会
青年部長 菅 宏行さん
前青年部長 寺出昌弘さん



「まずは自分たちが楽しんでいます」と語る寺出さん(左)と菅さん(右)

築地四丁目町会の地域は、昼間は店舗や事務所で働く人たちが溢れている一方、このように人々が帰った後の夜間になると人の姿を見かけることが少なくなってしまう地域です。こうした地域で、子どもはもちろん大人も楽しみにしているイベント「築四緑日」が開催されているということ、は少し風変わりなようです。

菅さんは「金魚すくいのほは手づくりです。駄菓子も自分たちが欲しいと思うものを調達しています。スタッフは自分たちがやりたい出し物を選べるため楽しんで準備・運営しています。我が家もみなさんで何かを学んでくれてこの緑日を十年後、二十年後まで受け継いでいくという最高のイベント」と話されます。寺出さんによると、子どもが「お父さん、こうやるといい」と言ったり、射的でうまく当たって熱中してしまったり、射的のうまいの当てたお父さんに子どもが「お父さん、見直したよ」と言っていたりしたことがあるそうです。このように「築四緑日」は「大人と子どもがふれあいの場」という目的を見事に達成しています。

このような誰もが楽しめるイベントを実施する理由を菅さんは次のように語ってくれました。「まず自分たちが楽しんでるからです。緑日の道具を作ることも、景品の駄菓子を探すことも楽しみます。そして始める前から成功させなければ、という気負いはありません。なぜなら、失敗してもフォローしてくれる先輩がいるからです。築地はそうやって若手を育てていくのです」。



大人も子どもも楽しめる手づくりの緑日

新川二丁目越一町会

一つになった三本の矢！
イベントで深まる一体感

新川二丁目越一町会
会長 杉田俊丸さん



「ともに協力しあえる理想的な町会」と語る杉田さん

新川二丁目越一町会の「越一(えいちいち)」とは、旧町会名の「越前堀二丁目町会」に由来します。会長の杉田さんによると、江戸時代に越前堀井藩の屋敷があり、その周りに船が入るための堀があったことから、この近辺を「越前堀」と呼ぶようになったとのこと。

このような由来がある町会について、杉田さんは「この町会には誰に対しても開かれた町会なので、昔から企業やマンションの方々も会員として名を連ね、役員として町会運営に加わられて町会の大きな力となっています。三年ごとに開催される富岡八幡宮例大祭では、週末に行われる行事にも関わらず、会社を休めて早く参加していただきます。二日間に行われる盛大なお祭りとおして、下町の人情にふれていただくこと、より一層町会への理解を深めていただいているようです」と話されます。

杉田さんによると、町会がマンションや企業の方々と協力関係を築きつかけとなるのはイベントであることが多いとのこと。

最後に杉田さんは「町会には、町会・マンション・企業の「三本の矢」が一つになった理想的な状態ではないでしょうか。今後どのような問題が生じても、必ず「三本の矢」で乗り切っていくことができます。また、町会の一層の発展のために、会員の皆さんの積極的な町会活動への参加やご意見を歓迎します」と述べられました。



房総方面へのバスハイク (いちご狩り)



バスハイクの帰りに海ほたるにて

人形町二丁目二之部町会

まちの歴史が世代をつなぐ！
みんなが誇りをもてるまち

人形町二丁目二之部町会
会長 橋元四郎さん
副会長 油井隆一さん
広報部長 山田譲司さん

人形町二丁目二之部町会会長の橋元さんは「人形町の歴史と文化を語る会」が発足したきっかけを次のように話されます。「昨年の新年会に、地元の郷土史研究家の有田芳男氏をお招きして、人形町界隈の歴史や成り立ちについて講演していただきました。人形町の町名が、江戸時代初期の地図に俗称として表記されていることや、町内の半分は武家地だったことなどをお話しただき、参加者が自分たちの住んでいるまちの歴史を語り継ぎようと考えたことがきっかけとなりました。現在は有田氏に町会広報紙に連載している人形町の歴史について教授していただいています」

橋元さんは「人形町周辺は商業地にも関わらず、歴史小説などの題材として取り上げられることも多い。週末は観光客でにぎわっています」と話されます。そのようなかまの歴史を広報紙に掲載したことで「人形町の歴史的経緯に若い方々が関心をもつようになり、年配者と若者のコミュニケーションがとれるようになったことに驚きました」と橋元さん。若者の中には、有田氏から人形町の歴史を学んでいる町会の広報担当者よりも詳しい人もいます。

人形町の歴史や町会の活動を掲載している町会広報紙は、町内にある集合住宅にも配付されていて、橋元さんのものには「自分たちが住んでいる人形町に誇りをもてる」との声も寄せられているそうです。橋元さんによると、集合住宅からは町会役員が選出されて町会運営に参加していることもあり、町会と集合住宅との関係は大変良好とのこと。昨年十一月には、防災訓練の一環として、集合住宅の棟を使用したのはしるし車による救助訓練を行っていることから、町会と集合住宅が協力している様子がうかがえます。

「町会は集合住宅だけでなく町内の多くの商店とも非常に強い協力関係にあります。商店の多くが親子三



「親子世代が一緒になって取り組んでいます」と語る橋元さん（左）、油井さん（中）、山田さん（右）

代人形町に住んでいる町会員というところもありますが、そうではない商店からも祭りの際には多数の寄付や差し入れをいただいています。また、商店の社員や駅員の方々に協力していただけます。商店の後継者は、祖父母や父母が仕事と町会両方に全力で取り組んでいる様子を見ているので、町会行事にも積極的に参加しています」と橋元さん。

歴史ある土地柄にも関わらず、役員の方々が柔軟な発想と若手を育てる意識を持合わせ、集合住宅と商店との協力関係も強く、後継者の心配もない理想的とも思われる状態にあつて、橋元さんはさらなる目標を掲げられています。「近隣町会と一緒に盆踊りをやってみたいのです。もっと町会同士の友好関係を築いていきたいのです」

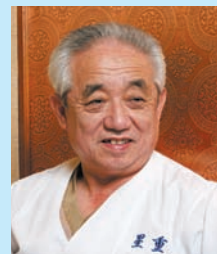


まちの歴史や町会の活動を知ってもらうために毎月発行している広報紙

日本橋六の部連合町会

一人ひとりの子どもがスタッフ！
緑日でよみがえるまちの名所

日本橋六の部連合町会
子供縁日オータム祭担当 府川利幸さん



「子どもの声がまちの活力」と語る府川さん

日本橋六の部連合町会は、東京の玄関口である東京駅八重洲口近辺の九町会で構成されています。オフィスビルが立ち並ぶこの一角に、日本橋西岸地蔵寺というお寺があります。子供縁日オータム祭担当の府川さんによると、江戸時代には全国でも有数のお寺だったことです。昔から、まちの人々や日本橋の芸者の信仰も厚く、役者であり後の人間国宝である花柳章太郎が無名時代から参拝に訪れたりと、緑日も盛んに行われるなど、変化にきわつていたそうです。しかし、昭和十八年頃からは戦争の激化と戦後の混乱などのため、西河岸地蔵寺へ参拝に訪れる人が減少して、緑日は行われなくなっていました。

昔にきわいを知る府川さんは、今年で十九回目となる子供縁日オータム祭のきっかけを「若い世代の方々に地域の名所を認識してもらうとともに、地域住民と子どもたちのふれあいの場とするために地蔵尊の緑日を復活させたかったのだ」と話されます。当日は、日本橋プラザビルの前庭部分を会場として、オータム祭の由来の緑日があった西河岸地蔵寺まで歩いて見学する「参拝ウォーキングラリー」と緑日が行われます。緑日は、品あめ、焼きそば、焼き鳥、射的などの品目を並べ、地元の城東小学校の児童や交通少年団、近隣小学校の児童なども来場して、子どもだけでも約五百人の来場者があるそうです。中でも城東小学校の五年生と六年生は緑日を楽しみただけではなく、連合町会青年部や婦人部の方々と一緒に緑日を運営するという重要な役割を担っています。子どもたちにとっては、大人に混じって緑日を担当することは、

でも良い思い出になるらしく、卒業文集に「緑日の運営が小学校での行事の中で一番楽しかった」と書く子どももいるそうです。府川さんによると、緑日の品目の中には、地元の名店の品物が出品されていて、他、販売開始後間もなく完売してしまう店もあるとのこと。回を重ねるうちに口コミで名店品が販売されていることが広まり、来場者数も年々増加しているようです。「第一回のときはとても広く感じた会場が、今では手狭になってしまいました」と府川さん。

連合町会では、オータム祭のほかにも日本橋橋洗いやちまひ大会、た揚げ大会など子どもが参加できるイベントをたくさん実施しているそうです。あまり子どもを見かけない地域でなぜこれだけのイベントがあるのか何だったと、府川さんは次のように話されました。「この連合町会では、お住まいの方が少ないこともあって、子どもたちとの交流の機会がなかなかありません。子どもたちの楽しそうな声がまちの活力になるので、地域住民と子どもたちのふれあいの場となるイベントを実施しているのです」



地元の名品が出品される緑日

名所復活のためにオリジナルのちらしも作成

月島四之部西町会

イベントを助け合いのきっかけに！
下町の良さを継承するために

月島四之部西町会
会長 山崎修さん



「下町の良さを継承していきたい」と語る山崎さん

月島四之部西町会会長の山崎さんは、町内の十九棟の集合住宅の加入について、「最近の集合住宅はオートロックを採用している、完成後に町会加入をお願いすることが難しいため、建築計画の段階で施工主や管理会社と話し合い、町会に加入することを前提に売買や賃貸契約をしてもらうように交渉してきました」と話されます。

「交渉を進めることができなかった集合住宅の方々に、さまざまな機会をもらえて一人ひとりに声をかけ続けた結果、年に数名は町会に加入していただきました。この町会は、向こう三軒両隣といった下町気質が今も残る地域です。イベントなど何かの折に顔見知りになることができれば、まちでお会いしたとき挨拶を交わせるようになります。挨拶を交われば、お話やご相談ができるようになります」と山崎さん。

町会では昔から町内に住んでいた方々と新たに町内に住み始めた方々との融和を進めるために、これまでさまざまなイベントを企画してきました。昨年八月に行われた、日帰りバス旅行「地引網体験やプールに温泉を楽しむ会」もその一つです。地引網は九十九里海岸で行われる、大人三十一名・子ども十七名が参加しました。みんなで協力して網を引き揚げたり、魚を網から外したりなどして大人と子どものふれあいの場となったそうです。

また、町会は地元企業とともに防災活動や防犯パトロール活動などを行うことよって強い協力関係を築き上げ、地元企業から長年にわたり町会用の事務所兼倉庫を貸与されていました。さらに、地元企業の移転跡地に建設された高層集合住宅には、防災資機材倉庫と町会事務所を設置してもらったことができた。山崎さんは「この倉

庫を設置していただいたことにより、大量の飲料水を保管できるようになりました。町会では昔から防災活動に力を入れていたため、一昨年に臨港消防署からモデル地区として指定されました。その後、災害に負けないまちづくりについて検討するための「地域防災向上協議会」が開催され、地元の三企業と地産発生の相互協力を定めた文書の調印式が行われました。まちにやさしい地元企業のご厚意により倉庫と事務所をお借りできたことは、まさにこの相互協力が実現した第一歩といえるでしょう」と話されます。

最後に山崎さんは次のように話されました。「このまちに残っている『お互いさま』の気持ちで助け合える下町の良さを継承していきたいのです。町会・集合住宅・地元企業の三者が一体となって、いざというときに協力できる関係を作りたいです」



親睦を深めた地引網体験



すいか割りも開催

